

提供年月日	令和3年1月29日（金）
提供者	太田 浩司（おた・ひろし）
連絡先	0749-65-6510 （職場：長浜市歴史遺産課）

## 国友鉄砲鍛冶成立に関する論文の発表 ～室町将軍による創始説から浅井氏による創始説へ～

様々な話題を呼んでいる NHK 大河ドラマ「麒麟がくる」は、2月7日（日）の放送をもって最終回（15分拡大版）を迎えます。これに際して、私（長浜市 市民協働部 学芸専門監）はドラマで重要な役割を果たした国友鉄砲鍛冶の創始について、新たな見解をまとめた論文を銃砲専門誌に発表したもので紹介します。

地域の歴史に興味を抱いて頂くため、多くの方への周知にご協力頂ければ幸いです。

### 記

#### 1 論文名 太田浩司著「国友鉄砲鍛冶の成立

- 編纂物に頼らない歴史構築の試み -」

#### 2 掲載雑誌 『銃砲史研究』<sup>じゅうほうしけんきゅう</sup>第391号（令和2年12月25日発刊）

\*実際に会員への配布があったのは、令和3年1月15日前後である。

\*『銃砲史研究』は、日本銃砲史学会（理事長：宇田川武久氏、現在の会員数99人）の機関誌。昭和43年6月の創刊以来、年に数冊のペースで発刊されている。中世以来の火縄銃や、近代の銃砲に至るまで、幅広く日本の鉄砲・大砲・砲術等の歴史や技術に関する研究論文を掲載する。

\*『銃砲史研究』の入手（1冊500円）については、下記までお問い合わせください。

### 3 論文の内容

- ①国友鉄砲鍛冶の創始は、通説では室町将軍家からの発注により創始されたと「国友鉄砲記」の記述を基に考えられてきた。大河ドラマも、この説を踏襲している。しかし、この「国友鉄砲記」は史料的に信用できず、実際は戦国大名の浅井氏が意図的に鉄砲鍛冶集団を国友村につくったと考えられること。
- ②織田信長からの鉄砲発注は、大河ドラマでも描かれていたが、確実な史料からは確認できないこと。ただし、長篠設楽原（ながしの したらがはら）合戦での信長軍の鉄砲が、多く国友製であることは否定できないこと。
- ③長浜城主羽柴秀吉や佐和山城主石田三成からの鉄砲発注や、鍛冶師の保護政策についても、「国友鉄砲記」等によらず「国友助太夫（すけだゆう）家文書」に残る秀吉や三成の文書から跡付けたこと。
- ④大坂の陣へ向けての徳川幕府からの鉄砲注文数は、「国友助太夫家文書」など確実な史料によれば、少なくとも 192 挺となり、600 挺以上になる可能性もあること。

### 4 論文の評価

『銃砲史研究』第 391 号（編集担当の日本銃砲史学会 常務理事 小西雅徳氏執筆）の「編集後記」の評価は、以下のとおりである。

太田氏の「国友鉄砲鍛冶の成立 - 編纂物に頼らない歴史構築の試み -」は、近年発見された国友助太夫家文書等を用いて戦国期から江戸初期における国友鉄砲鍛冶の成立と発展安定期の状況を先の史料を用いて具体的に説明し、従来からの国友鉄砲記と合わせて比較検証することで、国友鉄砲鍛冶の実像を紹介しています。国友は他地域の鉄砲鍛冶に比べ比較的家分け文書史料が多いとされていても、原史料の読み込みと分析が不十分な状況におかれ総体的な流れが不明確な部分も多く具体像に乏しい状況が否めませんでした。今回の太田氏の論考により新たな国友鉄砲鍛冶の展開を新視点で実像に迫るものと評価できます。本会では長く鉄砲起源論や各鉄砲鍛冶での発祥過程や生産展開について論戦してきましたが、国友鉄砲鍛冶については新たな展開の段階に入ったとの認識を持つための重要な論考と考えます。